

第41回学習会を、平成24年10月5日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

### 第41回の内容

講師 重枝一郎先生

- 「強制性」を教育的に活用するために
- 黙ってコミュニケーション(演習)



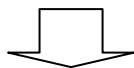
## 「強制性」を教育的に活用するために

### 1 「強制性」では結果にこだわる

最初は強制的にさせられたが.....

#### 振り返りのタイミング

- 結果として取り組んでよかった。充実感がもてた。
- 取り組んでいる中で意欲が向上し、以後自ら取り組むようになった。

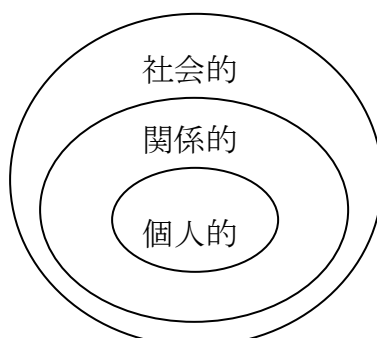


強制性 → 信頼 (やり方がうまい, 人間性がある)

### 2 3つのポイント

- (1) 意味を語る (なぜ, やるのか. なぜ, 今なのか. ※もし, 納得できなくても事前の語りが必要)
- (2) 一貫性をもつ (あの先生は, 新単元に入るときは必ずプレテストがある. あの先生は, 失敗は怒らない, 手抜きミスには厳しい. ※やらされる意味がわかりやすくなっていく)
- (3) 結果的充実感 (※指示に従ったらよかったという, 体験の因果関係を短い時間で体験させる)

自己価値感  
= 自信を育てる



#### 3つの価値を結びつける

友だち, まわりが喜ぶからという価値を見出した生徒は, 「みんなが楽しい」ということを通して, 「自分も楽しい」を感じることができる。

### 3 教師により高度なソーシャルスキルが求められる

- (1) 「強制性」は生徒にとっては嫌  
↓  
余計、教師の思いを適切に伝える力が必要

**エンターテイメント性** ← メラビアンの法則

言葉だけでなく表出するもの（表情、しぐさ）  
すべての共通項で伝わる



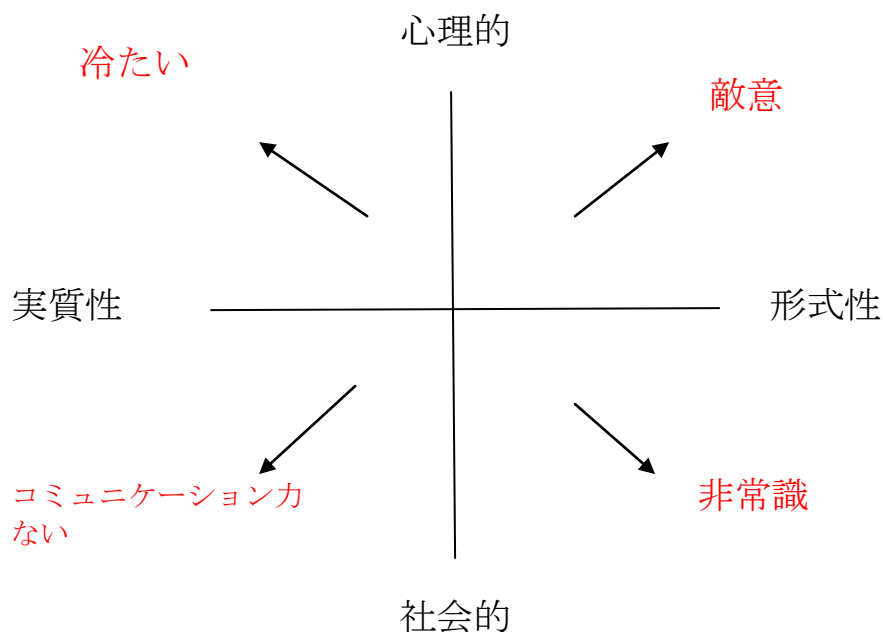
- (2) 結果が実感できないと不信  
↓  
取り組む意欲を失わないうちに、やってよかったという展開をつくる

- (3) はぐらかしたら不信  
↓  
建て前を嫌うが、最も嫌うのは、正面から向き合わない教師  
立派でなくても、自分の人生経験に根差した思いや考えを率直に本音で話す

「他人の迷惑にならないように」

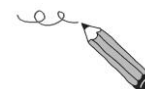
↓  
お互い様の中で助け合ったり、協力したりすることが大切！！

「あいさつの意義」



あいさつができない人 = **社会生活ができない人**





### 「強制性」から「信頼関係」に高める教師がしていること

教師は、教師というだけで、子どもにとって「強制性」がある存在です。それを「信頼関係」に変える教師は、意図的なかかわりをしています。そして、子どもたちは、プロセスの中でそれまでのことを、必ず振り返るタイミングがあります。その時、「何かを強制的にやらされた」と子どもが感じているだけなら、その教育的な意義は低くなります。

だから、教師は、子どもに問いかけ、「それをやる意味」を引き出し、教育的効果を高めるようにします。思春期に入った子どもは、頭でわかっている、素直な態度をとれません。そのような場合は、子ども同士の関係性を活用します。まわりの子どもに、「意味」を言わせます。そうすることで、「それをやる意味」を集団全体が「意識」するようになり、それが、「空気」をつくり出します。その空気が、教育力をもつのです。その空気が、集団を育てます。集団が退行しないように、タイミングよく教師が働きかけます。

### 鋭いアンテナをたてる！

子どものルール違反にだけアンテナをたてている教師は、一流教師とはいえません。子どもと「信頼関係」を築く教師は、ルール遵守にも鋭いアンテナをたて、タイミングよくまわりに伝えます。教師が、これぞというプラスの事実をキャッチしたとき、それを価値付け、子どもたちに伝えることで、めざす学級や集団のイメージをより具体的に共有化します。共有できる場と機会のある集団と、それのない集団では、1年間の蓄積の差は歴然としていきます。

子どもは、一般的な理屈より身近な事実によって、「それをやる意味」や「価値」を学びます。小さなプラスの事実は、学校で毎日のように起きています。それを見逃さない教師は、子どもの「自尊感情」の芽を育むことができる教師です。

### 「信頼関係」を高める3つのポイント

「意味を語る」ことは、教師になりたてでは難しいかもしれませんが。子どもの心に響き、納得させる教師になるためには、自己研鑽が必要です。自分の言葉を「キーワード」として、子どもに浸透できれば、その言葉が教育力をもちます。

例えば、「一日一生」でも、「一流の批評家よりも三流の実践家であれ」「先生は正義の味方、安心せい」でも、何でもいいのです。言葉には力があります。子どもが、覚えてしまうようなフレーズを繰り返し語ることも、効果があります。それは、「一貫性」をもつことにも、つながります。子どもも徐々に、強制的にやらされる意味がわかるようになります。

### いろいろな関係性から「自信」を育てる

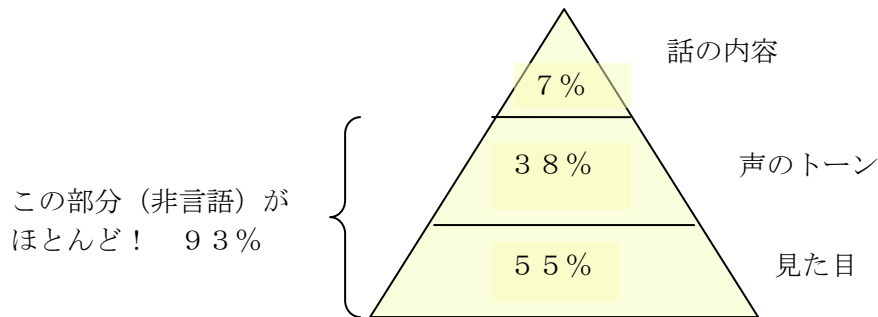
例えば、「あいさつ運動」をしないと、先生からおこられるからという「強制性」があって、あいさつ運動に参加している子どもがいるとします。そのあいさつを、地域の方々がほめてくださると、あいさつすることの価値を認識し、大きな声であいさつすることができる自分に自信をもつようになります。このような好循環を生むために、短い時間で体験し、振り返るというサイクルを意図的につくり出します。結果的充実感をもたせるようにするのがいいのです。このように、いろいろな関係性の中で、「自己価値感」をもてるような体験活動を仕組みます。

人は、「個人的価値感」だけでは、意欲は継続しません。他者とのつながりの中から、「関係的価値感」「社会的価値感」を実感させると、「個人的価値感」が深まり、主体性が高まり、自分への自信が育ちます。

## エンターテインメント性を身に付ける

子どもは、「強制性」を背景に「させられる」のは、嫌だと感じています。だからこそ、教師の思いを適切に伝える力が必要です。それは、話の内容だけではなく、表情、しぐさ、雰囲気等、すべての共通項で伝わっていきます。

「メラビアンの法則」でも示されているように、ノンバーバル（非言語）な部分が、その人の印象として相手に伝わります。だからこそ、自分のエンターテインメント性を磨いていく必要があるのです。



## 他人の迷惑にならないように・・・

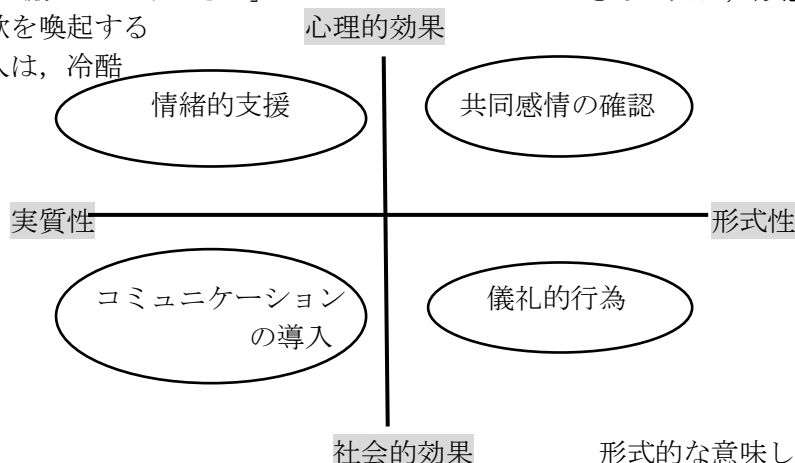
「他人に迷惑をかけないようにしなさい」  
よく聞く言葉です。

しかし、それを要求しすぎると、人間関係が希薄になります。

人とかかわりを避ける風潮にある現代は、「誰だって、人に迷惑をかける。絶対に、迷惑はかかっていると意識しよう。だから、助け合ったり、協力したりするのです。人とかかわりを避けては生きていけません。人とかかわらなければ、迷惑はかからないかもしれない。でも、本当にそれでいいの？」このように話して、ルールを守ることの大切さや、人間関係を築くことのよさを感じさせます。

## あいさつの意義

「頑張れ」「励ましのあいさつ」  
相手の意欲を喚起する  
できない人は、冷酷



「こんにちは」相手と自分と同じような気持ちをもつ  
できない人は、敵意がある

「お元気ですか」「元気です」  
問い、問い返し。  
できない人は、コミュニケーション力が低い

形式的な意味しかないけど、社会的には重要  
「お世話になっています」  
できない人は、非常識

「あいさつができない人」ってどういう人？（子どもに問いかけ、意識させます）

- ・「情緒的支援」という意義に即せば、励ましたり、共感したりしようとしなないことから、相手に関心をもてない孤独な人
- ・共同感情に欠け、相手に反感や敵意をもっているか少なくとも相手との関係を拒否している人
- ・コミュニケーションがうまくとれず、儀礼的行動ができないという意味で常識に欠ける人

総じていえば、社会生活が円滑に営めない人・・・と社会からは判断されてしまう

「共同感情の確認」相手に対して敵意や反感がなく、自分が相手と同じような気持ちをもつ

(例) 「こんにちは」

「情緒的支援」 励ましのあいさつ。相手の意欲を喚起する

(例) 「頑張れ」

「儀礼的行為」 形式的な意味しかないけれど社会的に重要

(例) 「お世話になっています」

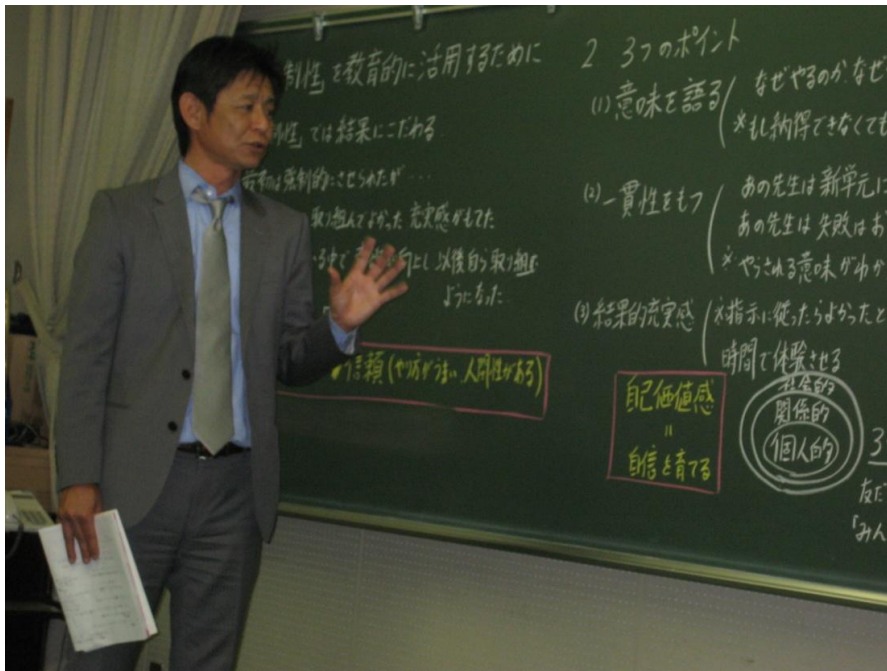
「コミュニケーションの導入」 問いに問い返し。コミュニケーションが図られる

(例) 「お元気ですか」

あいさつは場面によって、4つの意義を満たしています。そして、4つとも大事です。

まずは、あいさつを強制的にさせるにしても、振り返りの場面で、4つの意義を語れる教師でありたいものです。

教師は、基本的に「強制性」をもっています。だからこそ、高度なソーシャルスキルが求められます。どんな風に、子どもに伝えるのか。自分なりの伝え方をもつために、様々な語りができるだけの「自己研鑽」を積むこと、それが、エンターテインメント性を磨くことにつながっています。



## 演習 「黙ってコミュニケーション」

別名、「自己チュー、さようなら」というエクササイズの体験活動を、参加者全員で行いました。4人1組で行う演習です。

「同じ図形をつくろう」「正方形をつくろう」「しゃべってはいけません。ほしがってもいけません。ただ相手にあげるだけです」という説明で、エクササイズ開始です。

パズルのパーツが各自に配られます。そのパーツを全部使って、同じ大きさの正方形を4つ、つくります。自分だけ正方形ができて、終われません。4つの正方形が完成しなくてはならないのです。

そのためには、せっかくできた自分の正方形をくずして、相手にパーツを渡さないと、ゲームが進まない場面がでてきます。その時にどうするのか・・・。

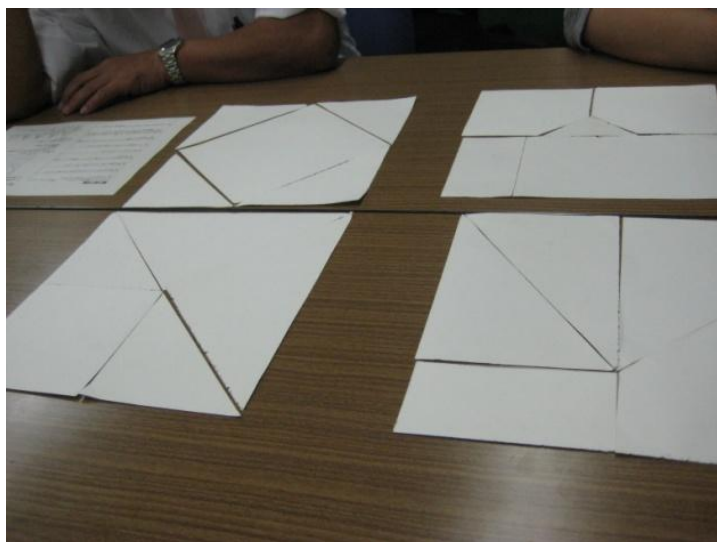
相手に要求することはできません。自分にできることは、自分のもっているパーツを相手にあげることだけです。あのパーツが自分のところにくれば、正方形ができるのに・・・と置いていてもうまくいきません。それよりも、まわりを見て、どうすればまわりの正方形が完成するのかを考えながら、パーツを渡さなくてはならないのです。

これは、アサーティブを意識することができます。自分だけ OK ではダメで、相手も自分も OK にならないと、うまくいきません。自己中心的な人がいると、うまくいかないし、ストレス がたまります。

反則したりイライラするのは、リーダー的な人ですという重枝先生の説明に、うなずけます。人それぞれにスピード感の違いがあるので、パツパとやりたい人は、思わず手がでる場面もあります。また、じっくり考えながら進めたい人もいます。非常にイライラするストレスフルなエクササイズですが、そこで、自分の自己中心性に気づくことができるのです。

「お互い様」「思いやり」につなげることができるエクササイズです。

行事や福祉体験の前などのタイミングで、子どもにさせると効果的です。エクササイズをしている間、自分の感情の変化を意識し、自分を客観視させるようにします。教師が見守り、このエクササイズをする意図を理解させる働きかけが必要です。途中で止めて、ヒントを与えたり、励ますことも必要でしょう。何のために行っているのか、それをおさえることが大事なエクササイズです。



# 「黙ってコミュニケーション ～ジコチュウーさよなら～」

## ○ 本時の活動のねらい

このエクササイズをすることで、自分の自己中心性に気づかせたい。エクササイズに楽しく参加しながらも他の人への思いやり、援助の手を差しのべ合い、互いに協力的な人間関係を形成したい。ひとつの成功は、みんなの力が必要だということを感じさせたい。

## ○ 本時の流れ

場面	教師の指示と子どもの反応・行動	留意点
インストラクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人組をつくる。</li> <li>・今、机に配った封筒にはいろいろな形をした20枚の厚紙が入っています。それを適当にそれぞれの机の上に分けてください。</li> <li>・これから4人の持っているカードを組み合わせて全員が同じ形、同じ大きさの図形をひとつずつ完成させます。(どんな形だろう?)</li> <li>・どんな形になるかは秘密です。</li> <li>・ルールを説明します。みんなは相手に自分のカードを渡すことができます。相手がくれないかぎり、相手のカードをもらうことはできません。また絶対おしゃべりは禁止です。(「ちょーだい」「いらない」って言ったらダメなの?)</li> <li>・そうです。一言でいえば「話さない」「ましからない」「ただ相手に黙って渡すだけ」「ジェスチャーもダメ」質問ある?</li> <li>・ポイントはゲーム中の自分の感情に注目することです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの机をつけて座らせる。</li> <li>・4人組までできるだけかたよしグループにならないようにする。</li> <li>・各班に封筒を配る。</li> <li>※同じ大きさの正方形になることを知らせてもよい。</li> <li>・ルールを板書する。</li> </ul>
エクササイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめてください。</li> <li>・完成したグループはふり返り用紙に記入してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール違反は必ず指摘する。</li> </ul>
シェアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想をグループで話し合います。班長が司会をしてください。</li> <li>・話し合いが終わったらさらに追加してふり返り用紙に記入してください。</li> <li>・班長さん発表してください。他の人もどうぞ。</li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このエクササイズでの気づきを今後の生活に生かしてほしい。</li> <li>・ひとつの仕事をみんなで完成させる喜びがあったね。</li> <li>・(例 修学旅行、職業体験、福祉体験)の一瞬一瞬の場面で、今日のことが生かせるといいね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの人もかたよしの貴重な存在であることを強調する。</li> </ul>



## 本日のキーワード

- 「強制性」を教育的に活用するための3つのポイント「意味を語る」「一貫性をもつ」「結果的充実感」
- 自己価値感＝自信を育てる
- エンターテイメント性：言葉だけでなく表出するもの（表情や仕草等、すべての共通項で伝わる）

## ♪ 学習会に参加された先生方の感想 ♪ （参加人数 28名）

- ・いつもタイムリーに感じられますが、今日は極めて即時性を感じられるテーマでありがたかったです。『強制性』・・・ついつい、強く他人にやり方や考え方や物事を押しつけてしまうので・・・自分の常々の課題でした。俯瞰することができた気がします。どのように伝えれば、相手の心が動くのか・・・いつも勉強になります。「ジコチューさよなら」も、言葉コミュニケーションのありがたみを実感できました。
- ・「強制性」の活用の仕方、「意味を語る」「一貫性をもつ」「結果的充実感」がとても勉強になりました。なるほどと腑に落ちました。また、エンターテイメント性を身に付けたいと思いました。  
「他人の迷惑にならないように」の話は、すぐに生徒に「語り」ます。風土会に参加すると、勇気と元気がもらえます。※「Teacher's Teacher 2」にある「組織を動かす」のやり方を知りたいです。  
  
（「組織を動かす」も「ジコチューさよなら」も、実際に自分で体験するのが一番の学びになります。本を読むだけではわからない部分を補うためにも、ぜひ、風土会で体験して下さい。「組織を動かす」は、近々風土会で演習をします！どんどん、リクエストしてください！）
- ・「他人の迷惑にならないように」という話が印象に残りました。「迷惑は必ずかける」「迷惑をかけないようにすることを意識しすぎると、人とかかわりを避けるようになる」「助け合ったり、協力することが大切」・・・。「かかわり」を楽しめるような集団をつくりたいと思いました。「よいかかわり」「迷惑をかけること」両方が「かかわり」だと思いました。人は一人では生きられないので、「かかわり」から学ぶような生徒を育てたいと思いました。
- ・「はぐらかしたら不信」という言葉が響きました。よいことも悪いことも、自分の生の言葉で伝えていきたいです。宗像地区の先生たちの研修会で、こちらで紹介していただいたエクササイズを紹介したいのですが、他にもおすすしめがあれば、教えていただきたいです。  
  
（言葉には力があります。大人でも勇気づけられます。時に凜とさせられます。教師は、子どもの心に響く話を、タイミングよくしていきたいです。また、先生たちの研修会でエクササイズを紹介する件、うれしい相談です！どんどん発信してください。いつでも相談して下さい。お問い合わせは、事務局までどうぞ）
- ・はじめて参加させていただきました。理論だけでなく、演習を実際に体験したことで、子どもの立場に立って考えることができたし、自分のことを客観的にみる機会になりました。私は小学校勤務なので、今回の演習をアレンジしてやってみようかなと思います。例えば、ノンバーバルな手法（表情やうなずきはOK.しゃべるのは×など）を使えば、コミュニケーション能力の育成にもつなげることができそうです。  
（私のクラスでは、メラビアンの法則を、サバンナ（387）ゴーゴー！（55）と言っています）  
普段、中学校の先生方との交流がないので、共に演習できたことも新鮮でした。よい学びの機会になりました。
- ・はじめて参加して、とてもためになりました。集中していたので、あっという間に1時間が経っていました。また参加したいと思います。伝えるって難しいと思いました。なかなか相手に伝わらないし、自分自身も伝えられていないと実感しました。
- ・2回目の参加ですが、事前に黒板いっぱい準備がされていて、参加者の方々も早く来てノートをとられている姿に、学ぶ意欲の高さを感じました。この場で一緒に学ぶことを、とてもうれしく感じています。自分自身の人間性を高め、ブレない軸をもつことが大切だと痛感しています。いろいろなスキルを身に付けると共に、人間性も磨いていかなければ・・・と、今までの自分の不勉強さを反省しました。